

2025 年 7 月 6 日 聖霊降臨後第 4 主日 ルカ 10: 1～11,16～20 『平和があるように』

本日のメッセージタイトルを、無理にお願いして『平和があるように』と、変更させて頂きました。はじめに予定していた『神の国は近づいた』というイエスさまのみ言葉も、確かに聖書の中で、喜ばしい報せとして特別に大切な物です。けれど 2025 年の今を生きる私たちにとって、一番切実な願いは、『この家に平和があるように』です。

2024 年の 4 月から、私は杉並聖真ルーテル教会を離れて、関東地区の巡回牧師となりました。1 年 3 ヶ月の間、私の心に常にあったのは『この家に平和があるように』という主の御言葉です。巡回牧師は基本的に、責任教職が定められて、招聘牧師が未定の、日本ルーテル教団関東地区の教会で、礼拝のお手伝いに遣わされて行きます。6 月は 1 日に福島いずみ教会と郡山伝道所、8 日に福島いずみ教会、15 日に大宮シオンルーテル教会、22 日と 29 日に飯能ルーテル教会で聖餐礼拝を行いました。

教会のご理解を得て、いつも大型バイクに金属の箱を三つ付けて、走り廻っています。箱の中には、着替えるための牧師服と、聖餐式で身に付けるアルバ・ストール・ロープなどが入っています。けれど一番忘れてならないのがメッセージ原稿です。牧師たちはお話しするメッセージを文章にします。礼拝時間を守り、皆さんの大切な時間を奪わないためです。そしてもう一つ、大切なのは、教会の平和を守るためです。

イエスさまの言葉は、確かに私たちに平和を与えて下さいます。けれど人の言葉は、私たちの間に争いを生み出すことがあります。本人にはまったく悪意が無く、ただ本当の事を伝えようとしただけなのに、その言葉が人の心を刺すのです。

「どうしてこの人はこんな事を言うのだろうか。」

そう思って聞いてみても、言葉はすれ違うばかりです。いい人だとよく知っているのに、どうしてそんな心ない言葉を、私に対して言うのだろうか。そう考えると悲しくて、やりきれなくなります。けれどどうやら、これは私の思いだけの幻想です。「心ない言葉」、そのとおりです。その言葉を発した人の心の中には、まったく責める気持ちは無いのです。その言葉を聞いた自分の中に、「この人は私を責めている」という気持ちが、勝手に沸き上がっているのです。 イエスさまは今日、72 人の人たちを選び出して、御自分が行くつもりのすべての町や村に二人ずつ先に遣わされました。これを聞いて私は少し気が楽になります。

「弟子たちが行く先には、その後でイエスさまが来て下さる。」そう思うことが出来るからです。「それならば心配無い。」そう思って少し安心します。さらにイエスさまは弟子たちに「自分たちだけでなく、もっと働く人を送ってくださいと、主に願いなさい。」

と勧めて下さいます。まだまだ拙い、自分の後から続いて、優秀な働く人たちが送られて来るのならば安心です。けれど「それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。」とイエスさまは言われます。これはどのような意味でしょう。「あなたたちは、必ず多くの強い者たちに襲われて、簡単にいのちを奪われるだろう」という意味でしょうか。

イエスさまはまったく、逆の事を言おうとされています。

「あなたがたは弱いから、力でみんなをねじ伏せようとしてはならない。あなたから働きかけてはならない。すべてを任せて、すべてを神さまに委ねていきなさい」

これが、「あなたがたは何も持つな。途中でだれにも挨拶をするな」というイエスさまの思いです。「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その

平和はあなたがたに戻ってくる。」

平和がある場所とは争いの無い場所です。

イエスさまは弟子たちに

「平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。」

と言われます。イエスさまは『平和』は『人にとどまる』事を明らかにされます。平和とは国ではなく、地方でもなく、街でもなく、家にでもなく、『平和』はそこにいる人にとどまります。

それでは『平和の子』とイエスさまが呼ばれる、平和がその人にとどまる人とは、いったいどのような人でしょうか。それは神の国が目指す人です。

ルカ福音書の18章16節から17節にこうあります。

＜イエスは乳飲み子たちを呼び寄せて言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」＞

さきほど「神の国が目指す人」と申し上げました。これは決して「神の国を目指す人」ではありません。主語は「神の国」です。私たちは主の祈りで、「御国が来ますように」と祈ります。イエスさまは「神の国はあなたがたに近づいた」とくり返して言われます。人が神の国に向かって行くのではありません。神の国が人に向かって来られるのです。子どものように神の国を受け入れる人のところを目指して、神の国は来られます。

この人をイエスさまは「平和の子」と呼ばれます。神の国は完全な平和がある場所です。戦争によって生まれる平和はありません。同じように争いによって、神の国が訪れる事も決してありません。神の国は神の愛を受け入れる人たち、平和の子の元を目指します。

ですからイエスさまは言われます。

くしかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。『足についたこの町の埃さえも払い落として、あなたがたに返す。しかし、神の国が近づいたことを知れ』と。＞

神の国は近づいています。けれど神さまのみ言葉に耳を傾けず、神さまの愛を受け入れない人たちには、踵を返し去って行きます。神さまの厳しさを恐れてはなりません。神はすべてを曖昧にせず、愛をもって識別を行われます。私たちはイエスさまのみ名により、すべての悪から守られています。

「しかしあなたたちは、神さまから与えて戴いた力と平和の中に、ただ喜んで安心しているだけではない」

このようにイエスさまは言われます。

「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

地上での権威や力は、必ず失われます。いつまでも同じ形で残る物は、この世において何一つありません。けれど神さまにより、天上に記された私たちの名前は、決して消え去ることがりません。それはいつか私たちが、天の国に迎え入れられるという約束です。

世界では終わることの無い争いが続いています。国内ではずっと地震活動が続いています。どんな絶望的な状況の中でも私たちは、いつもイエスさまの後に続いて、平和の子として生きてゆきます。争うことなく和解して、受け入れられなければ移動して、いつでも神さまに祈り続けます。

あなたがたの上に神さまからの平和が来ますように。アーメン